

オススメ 山道具

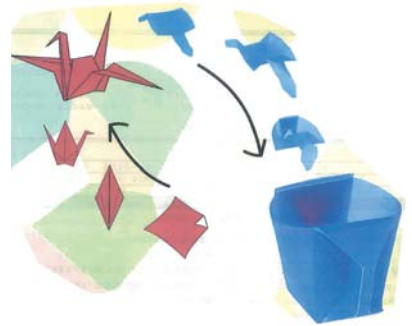
No.110

フラッタブル・ウェア

笹原芳樹
カモシカ・スポーツ



おでん入れにはプレート（約 22×17×4cm、約 46g、左のパッケージの写真参考）か右のボウル（約 17×17×8cm、約 44g）がいい。いずれも¥ 472
原料樹脂：ポリプロピレン 耐熱温度：0～110℃
ただしモデルチェンジ予定で輸入元のハイマウント社には在庫なく新入荷待ち



私は鶴は折れませんが「フラッタブル・ウェア」の食器なら折れました。写真はマグカップ¥525

折り紙のような食器

私は折り紙が嫌いです。なぜなら下手くそだからです。それでも小さかった頃は、きれいな折り紙セットをもったりするとうれしかった思い出もつすらとあります。でも折れないんです。

ハッキリ言って紙飛行機しかできません。昔からのあこがれは「鶴」で、これが折れる人を尊敬しています。まして千羽鶴なんて雲の上の話で、ヒマラヤに登るより私にとつては夢のまた夢、かなりの困難であります。

でもって、何で折り紙の話をしているかというと、その原因は昨年11月の友人達との忘年山行にまでさかのぼります。ありがたいことに私はあちこちから山行をお願いされて、

その度にホイホイと出かけておりますが、たまに人が集まらず中止になりたりもします。今回はたまたまそんな

日だったんです。偶然にも友人ら4人で「楽しい山行を……そうだ忘年山行をやるうぜー」という話になったんです。どこに行くかは任せましたが、けっこう考えちゃいますよね。という

のも忘年山行や新年山行は昼食時には少々飲みたいのであまり厳しくない山とコースで、人も少なく、日当たり良好の南面の道で、下山時に反省会ができて……などなどの条件をクリアする必要があります。

今回は以前に数回行ったことがある奥多摩の御岳山近くに突き上げている、昭文社の「山と高原地図」では破線になっているサルギ尾根（注1）を選びました。観光地みたいな御岳山の近くなのにほとんど人も来ない大き

なあずま屋があり、そこからの展望も良いのです。

さて昼食時の主食は何にするか……と悩むことはありません。寒い季節はいつもビニールバックのおでんなんです。からしも忘れちゃあダメですね。

コンロでいつも温めているのですがコッヘルのままだと味気ないし、小さな食器に分けるとすぐ冷めてしまうし前々から重くともプラスチックの大皿でも持つて行こうかと思っていたところ、偶然目にとまったのが「フラッタブル・ウェア」の折りたたみ式の食器でした。苦手な折り紙のような食器ですが、フラットになるためかさばらず、その上軽量です。価格が安かったせいもあり、何も考えず手に取ってしまいました。説明書を一読したら、あら簡単！ おでんがぴったり

とおさまりそうなプレートのできあがりです。

本番の忘年山行では満足の容器で、おでんをおいしくいただきました。そのせいか気持ちもよく、地図上ではまったく道のない越沢バットレス（本番さながらの岩登りができるゲレンデ）へ下る尾根（注2）をたどり予定外の充実した登山となり、その上に鳩の巣駅で知り合いのガイドさんと偶然に遭遇し、更にもう一杯となったのです。いい気持ちで青梅駅で東京行き車両に乗り換えるところ、何を思ったかザックを電車に乗せてトイレに行こうと出たとたん、ザックを乗せた車両が私一人だけを残し出して行ってしまったのです。友人達はア然！ 最後は大ポカのおマケ付きとなりました。寒いホームでした。トホホホ……。

（注1）サルギ尾根は地図上は破線でバリエーション的ルートと思いきや以前なかった指導標が登山口はじめ要所にきており、もはや一般ルートに近い。しかし急な部分や岩稜で道が分かりづらい所もあるので地形図は必携。あずま屋は高岩山からいったん下って登り詰めた上高岩山にある。登山道入り口は養沢神社。

（注2）この尾根は「金比羅尾根」と呼ばれている。越沢バットレスは昔、金比羅岩とも呼ばれていたとのこと。岩場頂上には金比羅神社が祀られている。御岳の大塚山から一般路と分かるが、下り上り共に分かりづらくオススメはあまりいたしません。